

「鳥獣被害防止に向けた集中捕獲キャンペーン」

和歌山県決起集会

農林水産省と環境省では、ニホンジカ、イノシシの捕獲を抜本的に強化して、生息頭数を半減させることで、生態系への影響や農作物被害の大幅な減少を図るため、令和 2 年度の狩猟期間を、鳥獣被害防止に向けた集中捕獲キャンペーン期間と位置づけ、全国的に捕獲の取組を推進しています。

和歌山県でも、より一層の捕獲を推進するため、関係者が一堂に会して決起集会を下記のとおり開催します。

記

1. 日 時 令和 2 年 12 月 6 日（日）午前 10 時～
2. 場 所 田辺市立武道館 メインアリーナ（田辺市扇ヶ浜 2 - 10）
3. 主 催 一般社団法人和歌山県猟友会
共 催 和歌山県、田辺市
4. 参加者（予定）
 - ・ 県猟友会員、田辺市鳥獣被害対策実施隊員
 - ・ 来賓
 - 自民党幹事長・鳥獣捕獲緊急対策議員連盟会長
 - 自民党鳥獣捕獲緊急対策議員連盟会長代行
 - 農林水産省農林水産副大臣
 - 環境省環境副大臣
 - 一般社団法人大日本猟友会会長
 - 全国農業協同組合中央会 代表理事会長
 - 和歌山県議会議長
 - 県議会議員、市町村長、田辺市議会議員
 - ・ 県、市町村及び J A 関係者

二階 俊博
鶴保 庸介
宮内 秀樹
笹川 博義
佐々木洋平
中家 徹
岸本 健

5. 内 容
 - (1) 主催者挨拶
 - (2) 来賓挨拶
 - (3) 決意表明

担 当 課	果樹園芸課 農業環境・鳥獣害対策室
担 当 者	門阪・矢部
電 話 番 号	073-441-2906

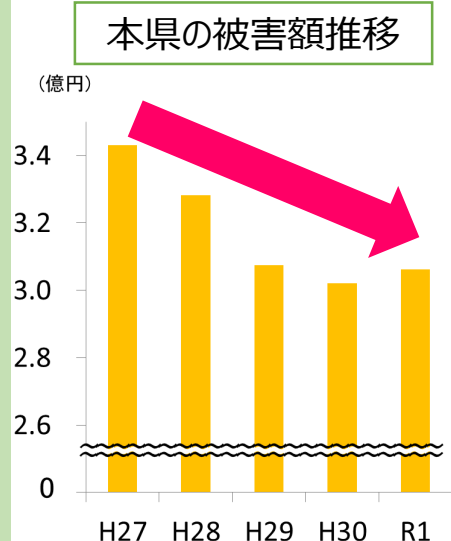
鳥獣害対策の現状と集中捕獲キャンペーンの概要

1. 鳥獣被害の現状

- ・和歌山県の農作物被害額は減少傾向にあるが、なお約3億円（R元年度）の水準
- ・このうち、65%がイノシシ、ニホンジカによるもの
- ・鳥獣被害は、営農意欲の減退、耕作放棄・離農の増加など、数字に表れる以上の深刻な影響をもたらすもの

【全国の被害額】

- ・H27年度は176億円 ⇒ H30年度は158億円
- ・本県と同様、イノシシ、ニホンジカによるものが64%



2. 鳥獣害対策の取組

◎和歌山県では、国の対策に加え、独自の取組も実施

※赤字は本県独自の取組

①捕獲（イノシシ、ニホンジカともに年間1.7万頭の捕獲目標を設定）

- ・有害鳥獣捕獲の支援
- ・捕獲報奨金に対する増額補助 (銃 5,000円/頭 → 10,000円/頭)
- ・狩猟期間の延長 (イノシシ、ニホンジカ：11/15～2/15 ⇒ 11/1～3/15)
- ・クマ生息域以外で輪の直径12cmを超えるくりわなの使用可
- ・ニホンジカの夜間銃猟 (全国でも本県のみ)

②狩猟者育成

- ・研修会の実施や狩猟免許取得への支援

③防護

- ・防護柵設置支援（2戸以下の小規模なものは県単独でも支援）

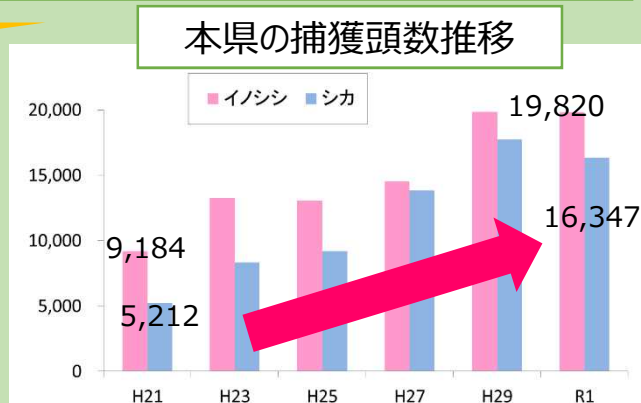
④ジビエの利活用

- ・わかやまジビエ認証制度 (処理施設衛生管理認証制度、肉質等級制度)
- ・わかやまジビエフェスタ

◎こうした取組で、**本県の捕獲頭数は増加**

【全国の状況】

全国では、近年、イノシシ・ニホンジカの捕獲頭数は合計120万頭程度で横ばいに留まっている状況



3. 集中捕獲キャンペーンの概要

【全国的な課題】

- 捕獲目標を設定していない県が相当数存在(和歌山県では設定済)
- 現状の年間120万頭程度の捕獲頭数では、国が定めた「イノシシ、ニホンジカの個体数をR5年度までに半減」させる全国目標の達成が困難な状況



国の取組

- 全都道府県で目標を設定することにより、**140万頭の捕獲をめざす**
- 捕獲強化エリアを各都道府県で設定



集中捕獲キャンペーンの実施（狩猟期（11月～）を中心に捕獲を強化）

【集中捕獲キャンペーンの趣旨】

- ・農林業における鳥獣被害の軽減を図るため、捕獲の強化により、イノシシ、ニホンジカの生息数を半減させる全国的なキャンペーンとして今年度初めて実施

- 期間中の捕獲経費は、各都道府県に対して別枠予算で支援

集中捕獲キャンペーンにおける本県の取組

- 捕獲強化エリアを設定して、集中的な捕獲を実施
 - イノシシ：県内全域
 - ニホンジカ：和歌山市、岩出市を除く県内全域
- キックオフイベントとして、今回、**集中捕獲キャンペーン和歌山県決起集会の開催（都道府県初となる開催）**